

第 11 回 奈井江町まちづくり町民委員会 議事録（要旨）

【日 時】 平成 30 年 3 月 6 日（火） 午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

【場 所】 役場 3 階 大会議室

【出席者】 委員～12 名（欠席 3 名） 町～11 名

委員	太田裕治	○	中村尚子	○	山口俊哉	○	伊崎裕介	○	橋本ミエ	○
	萬 由美子	○	長屋高史	○	大澤耕一	×	梅本てる子	×	田尻 弘	○
	三原 新	○	鈴木雅之	×	佐藤 唯	○	田口友子	○	福塚智美	○
町	北町長、相澤副町長、馬場課長、山崎事務局長、高橋係長、鉢呂係長 事務局：碓井参事、谷口係長、菊地主査、吉田主事、佐々木主事									

1. 開会 碓井参事

皆さん大変お疲れのところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻になりましたので、若干お見えになっていらっしゃらない方もいますけども、11 回目のまちづくり町民委員会を開催いたします。

まず、委員長からご挨拶をいただきたいと思います。

2. 委員長あいさつ

皆さんこんばんは。

今年 3 月になって初めてですけども、今まさに今年の予算等を行う議会が始まっておりますが、大変町にとって重要な時期にまちづくり町民委員会ができて、お忙しい中ありがとうございます。

みなさん、口癖のように雪が多いねということで、奈井江から滝川間、岩見沢はそうではないようですが、奈井江では特段雪が多いようで、いろんな関係者の皆さんのご苦労は察しているところです。そんな中でもこれから事故とか家がつぶれたとかテレビとか新聞で取り上げられることが奈井江町ではなればと思うところでございます。

皆さんも観てたとおり、平昌オリンピックが総括してみると北海道の選手が大活躍をして盛り上がったわけですけども、北海道の底力というものが逆に言うと冬のオリンピックなくしてならないなと感じます。

特に、話が長くなりますが、カーリング選手の女性たちが北見市常呂町に帰って言った言葉が印象に残っております。「何にもないよね」といった言葉が印象に残りました。

「何にもないけど、この町で夢を持ってやってきたからこそ、オリンピックに出れた」と言っていたと記憶しております。まさに、そういった思いがまちづくりには大事ななとつくづく感じます。

僭越ながら奈井江町に比べると一層札幌から離れてますし、そういうところでも、あのよう思いを紡いでオリンピックを目指すということは、ほんとに今日、議題にもなります教育の問題に関しても、そういった根本のまちづくりの原点になるんじゃないかと思っておりますので、ぜひ、そういうところを協議いただけたらと思います。

もう一つお米ですが、このあいだ品評米が 20 何年ぶりに新潟の魚沼産のコシヒカリが特 A から A に落ちたと、特 A はなんと「ゆめぴりか」と「ななつぼし」、まさに奈井江町のお家芸が発揮されたんじゃないかと思っております。そういった町に私たちはいるんだということがなかなか客観的にわからないところがあるんじゃないかと思っております。こういうことをどんどん P R していろんな意味でこのまちを人が支え、産業が支えそういったまちづくりにしていければと思いますので、ぜひひとつ、特に教育ということでありますので、活発な意見を述べられればと思います。以上よろしく願いいたします。

3. 町長 あいさつ（資料 1 町政運営等に関する主な動向を兼ねて）

皆さん、お晩でございます。

日頃より町政の推進にご協力をいただきましてありがとうございます。

本日は、お忙しい中、また、お仕事でお疲れのところお集まりをいただき、重ねてお礼を申し上げます。

早速ですが、最近の町政運営の主な点についてお話すると共に、新年度予算に盛り込みました事業の概要について申し上げます。

はじめに、雪の状況についてですが、今年は、平年の降雪・積雪を大幅に上回っている状況であり累積降雪量は2月末現在 878 c mとなっております。

除排雪に関しましては、予算の補正対応をし作業を行っておりますので、道幅が狭い箇所もございますが、ご理解をいただきたいと思います。

2月3日、文化ホールにおきまして、「ないえ冬まつり」が開催されています。

冬まつりは、商工会を中心に、農協や町の職員も加わった実行委員会形式で、文化ホールや農協の多機能型 交流スペースなど、駅前エリアを一体的に活用した中で、今年は冬まつりが始まった当初の原点である子どもたちが主役のイベントを中心に行われました。

会場は子どもたちの歓声や熱気に包まれ、来場した約 600 人もの人々が、真冬の1日を楽しんでおりました。

さて、平成30年度の町政の執行方針、予算案を審議する町議会の第1回定例会が昨日からスタートしました。

新年度予算編成に向けては、皆さんからもご意見をいただいたところですが、今日は、概要について私からご説明します。

最初に平成30年度の予算額ですが、一般会計が、49億3,700万円。

これに特別会計や企業会計を加えた全会計の総額が、70億991万円となりました。

詳細については、この後、担当課長から説明をさせますが、私の方から、新年度に取り組む主な施策についてお話をしたいと思います。

始めに町の柱の施策である、住宅建設や家賃助成などの定住対策は、各種、子育て支援策とも連動し、若年、子育て世帯の増加など、「人口の社会減」に歯止めをかける一定の成果をあげております。

新年度も、各種助成制度や住宅地の分譲など、移住、定住に向けた事業を積極的に展開して参ります。

次に子育て支援として、高校生までの医療費の無料化や妊娠と出産に向けての支援、認定こども園の保育料軽減など引き続き継続し実施をして参ります。

教育環境の充実のため、中学校校舎の屋上等改修工事を実施するほか、スクールバス1台を更新してまいります。

また、新たに中学生への公設学習塾を開設するほか、小中学校における給食費の無料化を第2子以降に拡大し、子育て世帯の負担軽減を図ってまいります。

昨年ゴールデンウィークに、観光協会が主体となって、にわ山森林自然公園を活用した初めてのイベントが開催されました。

この実績をもとに、新年度は観光協会や商工会、農協、行政が連携し「第1回ないえさくら祭り」が予定されており、事業の運営に対して支援を行って参ります。

合わせて、にわ山センターハウス・展望デッキの修繕を行い環境整備を図ってまいります。

安心して住み続けるための生活環境の充実や、活力ある産業の振興など、地域創生総合戦略と連動しながら、その成果が表れている取り組みもあります。

人口の減少が進むなか、定住対策や子育て対策は、引き続き喫緊の課題として取り組んでいかなければなりません。

本年は、旧江南小学校の有効活用など、官民連携による、新たな「地域包括ケア」の充実が期待されております。

刻々と変化する社会情勢へ対応すべく、今後も、財政規律の維持に意を用いるとともに、各事業の着実な推進に向けて、効率的かつ効果的な行政運営に努めてまいります。

以上が、平成30年度の主な施策の概要です。

この後、皆さんから、忌憚のないご意見等を頂きたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員長)

町政の運営等に関する主な動向についてまずは、予算の概要の説明もあると思いますので、それも含めまして、まず大くくりの中で町長の述べられたことについて何かご質問を受けたいのですがいかがでしょうか。

なければ、町長の退席の前に予算概要をした後に町長に答えていただくことがあるかと思いますが、ご理解いただきたいと思います。

それでは、議題に入りたいと思います。

(2) 議題 (1) ① 第 10 回 (12/5 開催) 委員会のご意見について 【谷口係長説明】

資料 2 により説明

(委員長)

私たち、町民委員会の意見の反映ということで載せたということでもあります。

いかがでしょうか。

(委員)

南町 6 区の件、対応いただきましてありがとうございました。

(委員長)

なければ、こういう意見があったら、ぜひ形にあらわれるようにしていただければと思います。

(2) 議題 (1) ② 平成 30 年度予算概要について 【馬場課長説明】

資料 3 により説明

(委員長)

ありがとうございました。それでは、予算を含めて、今年の新しい事業も含めて全体を含めて何か今年の使い道が明らかになったことですので、ぜひ忌憚のないご意見をいただけたらと思います。

(委員)

教育費でこれだけ歳出が増えてますが、中学校の屋上改修やバスの関係の話がありましたけども、奈井江商業高校の定員割れ今回 26 名と危機的な状況にあると思うんですが、この辺につきましては、やっぱり一時期に非常に改革、町の制服の補助というか無償化があつて定員を超えるような応募数があつたにも関わらず、ここ何年かで元の状態に戻ってしまったということは、なんか足りないんじゃないかと感じましたけども、実際お金はこのように使っている、高校のほうはやっぱりそれだけまわせるお金がなかったら企画がなかったということなんですかね、残念な結果になってしまったんじゃないかと感じます。

(北町長)

人口減少傾向が非常に強い中で、奈井江は健闘しております。そこはご承知おきいただきたいと思います。砂川高校もそうですし、滝川高校も激減しているんですが、そういったなかで 26 人確保したのは健闘した中のひとつであると思います。それ以上のことは教育委員会の説明します。

(山崎事務局長)

空知管内の中学校を卒業する生徒数ですが、資料を持ち合わせておりませんで何名とは明確なお答が出来ないですけども、年々減少傾向にあるところでございます。

また、北空知学区では今回、滝西のほうは 1 枠減になったりですとか砂高のほうも 1 減になっている状況で、高校さんのほうも非常に頑張っておりまして、今回小樽商大のほうへ入

学者が決定をしたりですとか、地元企業の住電さん、精密ツールさんなど地元企業のほうにも採用いただくですとか大変地域の方からも評価をいただいているのかなと考えております。

教育委員会としても、教育長が管内の中学校をまわりまして、生徒募集に努めているところでございます。

奈井江商業としても大変頑張っているのかなというふうに教育委員会としても思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

(委員)

理解というよりも、このままいったら高校の存続が危ないんじゃないかなということを申し上げたんですけども。

(北町長)

存続に努力してまいりたいと思いますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

(委員長)

のちほど、教育のほうでありますので、まずはほかに予算の関係でございしますか。

まだ、これから議会で予算委員会が始まって揉んでいくので、完全にこれがどうだとかってことはないかと思いますが、人口減を伴った中で基金がなくなっていくのが心配だなと思います。

いろんな予算について厳しい予算査定になっているのではと感じております。ですからそんなことも含めて私たち町民委員会として、いろんな形で意見を述べながら、こういったところは増やした方がいいんじゃないかと多少しも役立てるよう予算の反映になれるような形で意見交換をしていきたいと思います。

とりあえず、予算についてはこれからも揉むと思いますのでいろんな形で、議会だよりですとか確認していただければと思います。

それでは一旦質疑を終了させていただきます。

町長、副町長、馬場課長退席

(委員長)

それでは、まちづくり計画の検証で、25 ページ (1) 未来を担う子どもの育成についてから議論を進めて行きたいと思います。

冒頭に言いましたように、私ども地域を担う地域を支える子供たちのために奈井江高校の問題も全て大変大きく人づくり、まちづくりという言葉があるように教育というのはかなり大きなウエートがあると思いますので、ぜひとも、今から説明の中で進めたいと思います。

(2) 議題 (2) 第 6 期まちづくり計画の検証について【高橋係長・鉢呂係長説明】

(1) 未来を担う子どもの育成～ (2) 生涯にわたる学びの推進 P 25～P 29 より説明

(委員長)

非常に細目に亘って、説明をしていただきありがとうございます。

それでは、子どもたちの教育と生涯教育と大きく 2 つあると思うのでできれば、分けながら質問をしていただきたいと思います。

(委員)

いくつか質問とお願いがあるんですが、図書についてですが、図書購入は毎年なさってますが、今は漫画とかが増えてるのでしょうか。活字が苦手な子どもが増えていくということで、私の身近な子どもたちは漫画のようなほうが読みやすい子が多い感じがして漫画とかが増えてるのか気になったんですが。

(山崎事務局長)

児童書のほうにつきましては、漫画の購入も行っております。目で見た方が理解が早いので人気があります。また、学習に直結するような児童書もございますので、そちらも選定しているところでございます。

(委員)

やっぱりそうなんですね。もうひとつ巡回図書を実施するということで返却場所は図書館以外でもできるのでしょうか

(山崎事務局長)

みなクルの方で返却ボックスを利用させていただいております。あと、子供向けですが、小学校の方にも図書館への返却ボックスを設けております。

(委員)

お願いなんですけど、食の安全のところなんですけど、2の④安全・安心な学校給食を提供しますとありますが、地元の農産物を使うですとかとてもいいことなんですけど、もうひとつ、調味料とかは意識なさってるのかなと思ってます。

(山崎事務局長)

調味料につきましても、今の栄養教諭が出汁に非常にこだわりをもっておりまして、より体に良い自然のものを使用するように心がけていますし、また全てのものを国産の安全なものを使うように心がけています。

(委員)

よく、塩ですね精製塩じゃなくて、精製されていない塩を、以前保健センターのほうで、みなクルで精製塩を使っているのをみて、ちょっとびっくりしたとういうか、今、粗塩とかも高くないのでそういうのとか砂糖とか基本的に採るものでお子さんはすごく影響が大人より大きくでるということで添加物とかはもちろん使わないと思うんですが、あんまり費用が掛からないところでもあるので塩とか砂糖とか取り組んでいただきたいと思います。

(山崎事務局長)

お塩については、今何を使っているのかわからないですが、お砂糖のほうは甜菜を使用しているんじゃないかと思います。

(委員)

自分のこどもが小学校2年生なんですけど、学校のほうに興味があるんですけど、保護者アンケート実施されてその集まった質問意見が集約されて必ず学校で配ったり回覧板に挟まってくるんですけど、今年はどの学年で出た意見かあえて伏せましたというふうに載ってたんですけど、それは伏せて意味があるんですか。

結構具体的な意見が辛辣な意見がありまして、例えば担当している先生に対しての意見がいくつかあったりしたのが原因なのかなと思うんですが、そこは伏せちゃいけないんじゃないかって気がしたんですけど。何を目的として、どこに向けた意見なのか疑問だったので。1ー⑦より良い学校づくりに向けてアンケートを実施してこんな意見ができましたというのを皆さんにお知らせしているだけで終わるんじゃないくて、そこを突き詰めていいんじゃないかと思います。あと、子ども園の保護者アンケートがぜんぜん集まらなかったと聞いたんで、アンケートを出す価値がないという風に一部で聞いたんですけど、そういう意見もあるんだなというところにも目を向けなければならないんじゃないかなとちょっと聞いたんで、この機会に話したかったなと。

(山崎事務局長)

学校の保護者アンケートについては、学校だよりのほうで公表しているんですが、学校の方で学年をあえて伏せましたという記載がどうしてか私どもも聞いていなかったものですから、今のご意見につきましては、学校のほうに伝えていきたいと思います。

(委員)

私もちょっと共感するところがあったんですが、もしかしたら言っていないだけでそう思っている人がたくさんいるのかなと、それはどの学年なのかなというのがちょっと疑問だったんですが、そういうところに反映しないんじゃないかなと思いました。

(委員)

27 ページの 4 番の①で幼児教育を推進するために、認定こども園で英語教育を実施しているということで、月 2 回されているということなんですが、これ以外で例えば、美唄市だと先生を招いてサッカーのスクールをし、各市内の幼稚園・保育園で交流でサッカーを実施してます。そういった形だったり、また隣の砂川市だと、少年団が年少さんから受け入れをして、体力をつけていくということをやられていてほぼ、サッカーではなくおにごっこだとか体を動かす、体幹を強くしていくということを中心にやられていることを聞きまして、こども園さんでも例えば体操ですとか、サッカーですとか、運動を中心にこういった取り組みをされているのかお聞きしたい。

(山崎事務局長)

大変申し訳ございませんが、こども園の担当がおもいやり課の所管になるものですから、私ども教育委員会としては、こども園で進める英語教室に外国語助手を派遣をしているということで支援をしているんですが、詳しいことはお答えできませんが、子ども園のほうでもやはり体力づくりに力を入れているということを知っています。今のご意見につきまして体力づくりをしたほうがいいのではないかというご意見があったことはこども園の担当課に伝えておきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

私、職業柄、障がいを持った子ども達の支援をさせていただいてるんですが、⑤言語指導ということでこどもの教室、吃音・発音の部分でなかなか最近の子どもは私も含めてなんですが、硬いものを食べなくなってしまうということで口内の筋力がすごく劣っているということで、私のところに来ている子ども達でも砂川の通園センターさんに通園しているという方もいるんですけども、今実際には砂川の通園センターさんかなり通園されているお子さんも多くてなかなか支援を受けられないのが現状であります。美唄市もそういった市の困りごとを相談する機関を閉鎖するということが決まりまして、奈井江町は多分、保健センターが窓口になられていて、そういった障がいを持ったご家族がどういった関係機関に相談したらいいか悩まれているのが現状で、僕ら事業所としてもそういった部分をどういった機関に繋げていったらいいのか、今すごく課題として上がっています。

できれば、今後こういった連携といいますか地域との機関として積極的に係わっていただきたいかなというのが、現状として現場の職員から上がっているところなんですけども、中学校とは子どもに対してどういうことをしていこうかというカンファレンスではないですが、させていただいているんですが、例えばそういった学校主催で専門の知識ある方の勉強会みたいなところからスタートしていただけないかなと思っているんですが。

(山崎事務局長)

特別支援教育関係につきましては、研修という意味ではそれぞれ各学校でも校内研修は進めているところなんですけども、年 1 回専門家の方の講師を招致して研修も行っております。今年につきましては、美唄の養護学校の先生に来ていただきまして、特別支援のお子さんですとかユニバーサル教育というんでしょうか、そういうお話をしていただきながら、教職員

の研修は進めております。連携については、うちの町は子育て支援係が所管になりますけども、5歳児検診というものを実施しております。小学校の入学前の検診を実施しているわけなんですけども、そのカンファレンスの中には、教育委員会も入っておりましてお子さんの状況等については、連携をしております。

また、教育委員会主催でも特別支援教育推進委員会というものがございまして、各学校の教職員、校長先生・教頭先生のどちらかで教育委員会職員、保健師、子育て担当、子ども園担当も入ってそれも年2回程度会議を開いてみんなで連携をはかっております。

(委員)

学校給食費に第3子以降無料にしていると普通は2名ぐらいが多いんですが、第3子以降は何世帯ぐらいあるんでしょうか。

(山崎事務局長)

第3子以降、今年度の実績なんですけども、小学生では12名、中学生では8名ということになっております。さきほど予算の説明にございましたけども、30年度の予算として第2子以降に拡大をしようと現在開かれております議会のほうでご審議をしていただくことになっております。そうなりますと、人数があくまで見込みなんですけども、小学生77名、中学生50名ぐらいに拡大になるのではないかと考えております。

(委員)

無料までいかなくても、そういう形でやるのはいいと思います。

それでは、高齢化の話なんですけども、寿学級というよそで言う老人大学というものなんですけども、やっぱり高齢化で人数が増えてますが、組織率は下がってきているんです。せっかくやっても集まりが少ない。老人大学は特別だという考えがあるみたいでなかなか人数が増えてこないんです。それにもかかわらず、教育委員会では力を入れていただいて予算化して頑張っていていただいております。年11回講義をやってそのあとサークルと私はカラオケですが、民謡とか活動しております。活躍しておりますので、今後も皆さんのご理解をいただきたいと思います。

(委員)

老人大学って大学っていうから敷居が高く感じられるんでしょうか。

それならシルバーカレッジとかにしたらいんじゃないでしょうか。

(委員)

おっしゃるとおり、老人会も老人ということに反発して入らない人が多いんです。北竜では「ひまわり」って会にしているようです。

(委員)

先ほど高校のお話で私も孫に奈井江商業に行くように言ったんですが、岩見沢の学校に行きました。また、来年も中卒がいるので奈井江の高校へ行くよう言うつもりでいます。それと、文化祭の芸能発表で年々人数が減っているとそれはわかりますが、たしか、持ち時間20分だったと思いますがそれを少し増やしてくれたらカラオケなんですが出場できる人がいます。その日に出れないとかそういう話ではちょっと都合つかないかもしれないが、出場される方が増えればいいのであれば、増やそうと思えばできることはあります。

(委員)

ないえ福祉会で6年生でじゃかいもで交流する機会をもっているんですが、なかなか障がいがある方と接する機会が小学生はないので、良い機会だなと思いながら、町の障がいフォーラムでも小学生の子ども達がお話してくれたり、いいことばかりではないんですが、ちょっと障がいの重たい方はびっくりするんじゃないかなとか怖がるんじゃないかなとある程度

制限して利用者さんも接したり関わったりしてるんですけども、今後ともぜひ続けていければと思います。

町内にも障がい者のグループホームが5カ所あったりしていろいろなところで歩いていると思うんですが、障がいがある方も優しく接していただきたと思っております。

関わっていける部分については関わっていきたいと思っております。

(委員)

2-⑦中学校にスクールカウンセラーを配置って書いてあるんですが、すごく良いことだなと思います。

お父さん、お母さんに言えなかったりお友達にも言えなかったりした時に、そういう話ができる人がいれば、子ども達が助かるんじゃないかなと思いますので続けてください。

もうひとつは、寿学級ですが、主人も今年初めて行ったんですが、一回行って嫌だっけいのかと思ったら結構喜んで行っています。今日も行ってどらやきとかなんかみんなに貰ったようで、年何回のことだと思いますけども、喜んで行ってますので頑張って続けてください。そのうち、私も行きたいと思っております。

(委員)

予算のところで中学校の公設学習塾ってあったんですが、予算の中の説明の中では言われなかったと思うんですが、道新にも載ってたんですが、すごい興味を持った方たちがいるので、なにかしら、わかっていることがあれば教えてほしいです。

(山崎事務局長)

事業といたしまして、新年度予算のほうに計上させていただいてるんですが、中学校の1年生から3年生を対象に実施をしていきたいと考えております。

民間の塾の方から1名講師を派遣をしていただきまして、中学校1年生2年生は隔週で、3年生にあっては毎週。開設する時期なんですけど、6月～11月の初旬くらいまでの土曜日の時間を使って中3は20回、中1、中2は隔週になりますので10回くらいになるかと思いますが、まずは家庭学習を定着をさせたいとその中で、基礎基本を先生から教えてもらう形で指導していきたいと考えております。

あと、テキスト代といたしまして、1教科2,160円かかるんですが、数学と英語で指導していきたいと考えておりますので、塾に通うんだという意識を保護者の方も含めていただきたいものですから、一般家庭の方につきましては4,320円、準要保護世帯、生活保護世帯につきましては、半額の2教科で2,160円のご負担を頂きたいと考えております。

(委員)

期待しているみたいですので、他のところに行こうかな、でもこれがあるならこっちのほうに考えている方もいらっしゃるんで、でも決まったら公表して学校側でもしますね。はいわかりました。

あと、学校施設の設備のところ、やっと中学校のトイレが洋式になるんだという感じになったんですが、年1回保護者の方が掃除に行くんですが、まだ和式なんだというのがあったので洋式になるのはありがたいなと思っております。

あと、学校給食なんですけど、第3子以降が第2子以降になるんですけども、学校給食の残り、残飯はどうなのかなと、無料になっていいのかなと思うんですが。

(山崎事務局長)

今年度と昨年度の比較で言いますと、奈井江町の子どもたちは変わっておりません。同じ比率になっております。奈井江にある給食センターは浦臼と奈井江の学校へ提供しているんですけども、奈井江町の子ども達のほうがよく食べてくれています。

(委員)

極力無いほうになってくれたらと思ってます。

(山崎事務局長)

また、先生方も年に数回ですが私たちも学級に入って給食を食べる機会があるんですが、先生方も非常に努力をしてくださいますので、たとえば、いただきますをしてから、苦手なものを食べられない子もいますし体格差もありますので、そういう子は自分が食べれる分量にして手を付ける前に戻して体大きくて食欲のある子はまた、さらにおかわりをするとか、例えば食缶の中に残っていれば担任の先生が回って子ども達に食べさせていただいていますので、学校の方でも努力をいただいているなど感じております。

(委員)

献立表が毎月配られて子ども達にも親御さんたちにも給食を作る時の大変さをお互いに家族同士で話し合って「これ食べてきたかい」とかコミュニケーションとかがあったらいいのかなと思ってます。

(委員)

高校の話なんですけど、存続に向けて町から高校に助成します、補助しますというラインはあるんですけども、逆に高校からこうしたらいいんじゃないかと公式の場で町に言うシステムはあるんでしょうか。

(山崎事務局長)

例えば、学力例えば町は子ども達の検定料の助成だとかそういうもので支援金とかだけではなく生徒確保のための補助金もだしているんですけども、高校のほうから、支援金だけには頼ってはいけないという認識をしまして、やはり学力の向上というものが非常に重要だということを思っていて逆にこういうものに使いたい学力を向上させるためにこの補助金をこういう風に使いたいという提案はあります。

存続のためには、やはり魅力のある高校でなくてはならないということから、学力を向上させて親御さんや子ども達から選ばれる高校になっていかなければいけないということから学力向上のためにこういう使い道をしたいということのお話があります。

(委員)

僕の地元の学校も学力を上げようとして失敗して閉校になったんですね。

すごい不良学校でちょうど移り替わりの時期で、学力を上げていこうと部分の流れだったんですが、時代の流れと共に閉校となってしまいました。

まさしく、奈井江町と一緒に農業の町なんですけど、学校がなくなってしまうので現状で、切り口を考えた方がいいんじゃないかと思うんですが。

(委員)

ちょっと聞いた話なんですけども子ども達が中学3年生と高校2年生という世代のお母さんたちが同級生でいるんですけども、どこの高校を受験するって時に学力で上を目指して滝高、西高行くだよと聞くんですけど、学力がそこまで高くもなく進学を考えてない子たちはどうやって選んでるのか聞くと学力に相応したところもあるんですけども、工業高校なんかは国家資格が取れるから工業高校を選ぶ子が多いということを聞くんです。そういう特色、学力というのは、それぞれの高校にある程度のレベルがあると思うんですけども特色の面をあまり耳にしないので奈井江商業高校に関しては、工業高校は不良が多いイメージがあったんですが、今の子供たちはそういう感じではなく、仕事に直結するとか現実を考えている子が多くて選んでるんだなというのも聞くので、そういう側面も大事だなと気がします

ので、小樽商大決まったっていうのもかっこいいんですけどもその差が入ってこなかったなと。

(委員)

高校の教職員さんが普段生活していて、例えば「給食があったらこの高校増えるのにな」とかというのを町に言うシステムがあるのかなと思って、言えればいいんですが。

(委員)

最初に高校の話をしたんですが、さきほど、おじいちゃんが奈井江高校に行けばいいんじゃないかって言ってくれたんですが、そういう人ってなかなかいないっていうか奈井江の高校が定員を超えたときは広報の力だと思うんです。

確かに制服の助成とかいろいろなことをやったんですけども新聞に載って親御さんの「これいいんじゃないの」と、多分親子で話もあったと思うんですけども、今どうなのかというと、この制度はずっと続いているだけでも新聞で取り上げられたりとかあんまり最近はされてないので、その線が細くなってきたというか。

ちょっと話が違いますが今うちの会社すごく忙しいので人を採用するんですけども、ずっと採用できなかったんですよ。差別化なんですね。やっぱり条件をこういう風に変えてったら人が採れるぞというのを提案していった人を取るんですよ。今は人がすごく来てるんですよ。今、ある意味広告とか条件とか良くて応募が多くて面接もしきれない、ストップしている状況なんですけども、広報の力はすごい大事でさっき町長も努力してるんですよと言っていました。

たしかに努力して奈井江商業の高校生が商工会の青年部のお手伝いとかしてすごくいい子なんですよ。今年この春にも私、住電と精密ツールと兼務しているんですけども2名ずつ採るんですけどもすごく良い子なんですよ。だから学校の指導がいいけども入ってくれない。ここはもっと道新とかプレスとかとお付き合いして奈井江商業はこんなことやってるんだと売り込まないと、生徒って来てくれないんじゃないかなと。

どこも減ってるんだと言ってもやっぱりそうは言っても定員オーバーしているところはあ

るんですよ。ここは企画力というかそういうところなんじゃないかなと思います。

4-⑦の生徒を確保しとあるがそれができていないような気がします。

(委員)

中学校の部活動なんですけど、ぜんぜん選択肢がなさすぎてうちの子どもも野球をやっているんですけども野球部がないということで、この前参観日の懇談会の時にバドミントンをすごく一生懸命やっていてオリンピックに出たいんだという意欲のあるお子さんがいて、やっぱり奈井江では中学校に上がってもそういうことができないからどうしようか考えてるって言っていて、うちも野球やってるんですが、少年団の子も中学校に上がるので奈井江に野球部がないから砂川に引っ越したりですとか今4年生数名考えてたりとかしてるんですよ。私は奈井江が大好きなんでいろいろ考えるとところもあるんですけども、どうにかならないのかなと。

少数派の意見かもしれないんですが、昔はいっぱいあったのでお願いというか。

(委員)

部活動を発足するにあたってどんな条件が必要なのかあれば、有志でその条件を満たすというのかもあるのかもしれないけども、学校の都合なんですか。

(山崎事務局長)

やりたい子がどれだけいるのか、指導できる先生がいるのかとか関係してくると思います。

(委員)

それは、希望をもっていいのか。クラブがないから出来ないってそういう努力してどうにかなるのか。検討してもらえる余地があるのか。

(山崎事務局長)

この場でできる、ともできませんともご回答ができません。

(委員)

男の子だったらサッカーかソフトテニスだし、女子だったら吹奏楽かバレーかみたいな。その選択肢で子どもの体力云々って言ってるんだったら、やってほしいなのというのがあって。

(委員)

おっしゃるとおりで、私たちの世代は野球部がない中学校なんて信じられない、そんな時代で先生の意欲の部分で先生が野球大好きだったら野球部の顧問ってあるんだけど、そういう先生も若いから昔私たちが憧れた王、長嶋とかそういうのに憧れてた時代の先生ではないんだよね。でも野球部のない中学校なんてサッカー部のない中学校なんて、おっしゃるとおりさみしいし、そういったことは、外部から招集してなんとかならないのか幅広い教育環境とか大事だと思う。

やる気のある子ども達の機会を摘んでしまうことだと思うんですね。やりたいのにやれる環境がないのは、そういうのはしっかり教育委員の皆さんも環境を整えるということが大事だと思います。しょうがないじゃなくて、やっぱりそういったところで、冒頭で言ったカーリングじゃないけども、環境があってオリンピックにいけるまちがあるんだからそういったところは見習うべきじゃないかなと思います。さみしい部分とそういった部分に意欲を持ってやってくれる取り組みをしてほしいと思います。

(委員)

前回、お話をさせていただいて、すごくすてきなチラシを作っていただいて、ここにお問い合わせというのがとてもいいなと思いました。ちょっと聞いてみようかなって気になるのですぐ連絡できそうでありがとうございます。

(委員)

今年の雪はすごく多いんですけども、小学校前は危険なので、特別扱いしてくれてると思うんですけども、さらなる特別扱いをお願いしたいと思います。

(碓井参事)

先週、担当から聞いた情報なんですけども、追いつかない状況でしてグルグル排雪に回ってるんですけども、とにかく追加の部分は幹線と言われるところは広げる努力をしているということも聞いてますので特に西1線はそういった部分もあると思いますので。また、なにかありましたらお願いします。

(委員)

大雪のことで、札幌なんかでは排雪所を止めてるとかって、札幌は少ないんだけどもそういうところがありますよね。私、除雪の山のそばにいるもんですから眺めていたら松の上の方に行ってどんと出口にきてますよね。あの、融雪槽のお湯のところにも投げてますよね。いっぱいになったら朝まで止めるんだから、優先的にやってるんですよ。なんか満タンになってとまりそうだよ。出口までせめてきてる。

(碓井参事)

バランスをとってやってると思います。ほんとにひどい何年か前には工業団地の団地の面まで積んだことはあったんですが、いまそこまではいってないのでただ、あの辺の道路も上手に活用してちょっとその辺の堆積も工夫してやっていると聞いております。

例年、さきほど町長が言っていました平均4mぐらいなんですけど、昨年は2m70cmくらいだったんですが、今年は3倍ほど降ってるんですね。非常事態だけでも一生懸命やっております。

ご理解いただきたいと思います。

(委員)

町民歩こう会なんですけど、今、川の方で実施してると思うんですが、せっかく桜まつりも力が入ってきてるのでぜひ、にわ山のほうでお願いしたい。熊が心配って声があったようですが、大勢でいったらそういう危険性はかなり減ると思うんで、いろいろ調べていただいたうえで、できるなら山の方でやってほしい。

まえに、小学校の子ども達のにわ山のビデオを見せたときに、全校生徒に見てもらう機会があったんですけども校長先生が見せたいということで、行ったことがない、そういうところがあるのを知らなかったって言う子が半数以上いたんですね。そういうのをぜひ山の方でやっていただいたら、子ども達も興味が出るのかなと思いますので検討をお願いします。

(山崎事務局長)

昔は、にわ山に登ってたんですよ。ただ、歩こう会をやる時期にちょうど熊が出てくるんですよ。

(委員長)

もう大丈夫です。

(碓井参事)

モンスタービームを2台置いてますので。今年試験的にやっていただいたらなんか熊かどうかわかりませんが、鹿も多いですけども若干なんですけども糞の形跡も減っているというような実績もあるようです。

(委員)

体験で言うんですけども、今、桜が有名になってまたさくら祭りをやるってことですけども、私もライオンズクラブに入って、山に行って何年も桜を植えたんです。植えるといっても、穴がほれないんだから。泥かき集めて植えたんです。それが大きくなってます。そういう苦勞もあったということで私が中年の時にライオンズクラブで植えたんです。そういうことを覚えておいてください。

(委員長)

私が今、代表をやってますので、新聞やテレビでちゃんとってますから。ライオンズクラブの方がやっていると。改めて言わせていただきますが、さくらまつりが、正式に商工会、観光協会、町もあわせて本格的に力を入れますのでぜひ、それまでまちづくり委員会はないと思いますので、みなさんよろしく願いいたします。盛り上げていただきたいと思います。

それでは、ほかになれば終わりたいと思います。

ありがとうございました。